



白いころ

”薬のプロ”として

「この薬を飲み始めてから、ちょっと吐き気がしているの」

心配そうに悩みを打ち明けてくれる患者さん。

人見知りだけど、薬の情報を正確に知ってほしいから私は患者さんの一挙一動に注目し一点の曇りもないコミュニケーションを心がける。

「それは、しんどいですよね。
何が原因か調べて、楽になるように薬の内容を検討しましょう」

学生時代、実習先の病院で憧れの先輩に出会い、薬局ではなく病院で働く薬剤師を志した。

あれから15年、今の自分には何ができるのか？常に自問自答を繰り返す。

病院で、薬の飲み合わせによる副作用が出るケースも少なくない。だからこそ慎重に状態やカルテを確認し、使用する薬を医師と協議する。

“薬のプロ”として、いつまでも患者さんの味方でありたい。